

2011 年は国際化学年-国連が宣言

2008 年 12 月 30 日，ニューヨーク，パリ発。

第 63 回国連総会は，2011 年を国際化学年と制定する決議を採択し，UNESCO と国際純正および応用化学連合（IUPAC）をこの活動の中心団体に指名した。

エチオピアが国連に提案したこの決議は，化学の成果と人間生活の向上への貢献を記念するものである。この年は，2005-2014 年にわたる「国連・持続可能な開発の 10 年」に改めて注目させることになるだろう。2011 年中に行われる国内の活動と国際的な活動は，天然資源を維持する上で化学が重要であることを強調するだろう。

化学は，私達が住むこの世界と宇宙を理解する上で基本的な学問である。さらに，分子の変換は，食料，医薬品，燃料および数え切れないほど多くの工業産物と天然産物の中心となっている。この一年を通して，世界は化学が生み出した技術と学問的成果を祝福し，その知識への貢献と，環境保護および経済発展への貢献を祝福することになる。

「国際化学年は，私達の日常生活と未来の基盤となっている化学という学問の発展を，世界的規模で加速するでしょう。私達は，人々が化学に対する認識と理解を深め，若い人々の科学への興味を高め，化学の創造的な未来に向かう情熱を生み出すでしょう」と，国際純正および応用化学連合（IUPAC）の総裁である陳政一教授（韓国）は述べている。

「私は，自然科学の基本的分野の一つである化学を祝福するこの機会を歓迎します。」と UNESCO の理事長である松浦晃一郎氏は述べた。そして，「人々が化学をよく知ることは，持続可能性への挑戦という観点からこの上なく重要なことです。代替エネルギー源の開発や増加し続ける世界人口に対する食料の維持に化学が貢献することは間違いありません。」と付け加えた。

2011 年はマリア・スクロドフスカ・キュリー夫人のノーベル化学賞受賞 100 周年を記念する年であり，女性の自然科学への貢献を祝福する機会を与えるものでもある。この年は，数年後に IUPAC に引き継がれた国際化学会協会（IACS）の発足 100 周年でもある。IACS そして IUPAC は，命名法と用語の標準化によって化学者の国際的な学問的情報交換と協力の必要性に注意を向けるために発足した。

2007 年に，IUPAC 幹事会は 2011 年を国際化学年に制定する決議を得る計画

を全員一致で確認した。それから1年経たないうちに、UNESCOの運営委員会はエチオピアが提案した決議を推薦し、国連総会が2011年を国際化学年に制定するよう、全面的に支援することに同意した。

国際純正および応用化学連合 (IUPAC) : IUPACは産業界と学会の化学者達が1919年に創設した。以後90年近くにわたって、化学分野での世界的な情報交流を深めると共に、学会、産業界および一般社会の化学を共通の用語で統一することに成功してきた。IUPACは、化合物命名法、化学用語、標準的な測定法、原子量およびその他の分野で世界的な権威として認められている。近年、IUPACは、近年の化学の発展を刺激するために、広範囲な分野の国際会議やプロジェクトを推進することに努めると共に、化学教育および一般社会の化学への理解の分野を推進している。IUPACとその活動に関するより詳しい情報は www.iupac.org から入手できる。

国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) : UNESCOは1945年11月に国連の特別分野機関として発足し、教育、科学、文化および情報交流を通じて、平和な社会の建設と貧困の解消並びに持続可能な発展と異文化間の対話に貢献している。その使命を達成するために、UNESCOはアイデアの実験室および基準の設定役として働き、発生する倫理的な問題に関する一般的な合意を作り出している。UNESCOは、情報と知識の普及と共有のための情報センターとしても働き、加盟国が広範囲な分野で人および組織の能力を開発するのを助けてきた。これらの活動を通じて、UNESCOは加盟する193の加盟国と6つの準加盟国の間の国際協力を推進している。自然科学分野でのプログラムは、持続可能な発展のために科学知識と科学政策の機動力を発揮することに集中しており、対象となる分野は、基礎科学、科学教育、生態学、地球科学、水関連科学および気候変動にわたる。UNESCOとその活動に関するより詳しい情報は www.unesco.org/science から入手できる。

(原文は <http://www.chemistry2011.org/>より入手可能)